

寒冷地形談話会通信

1983年度 第3号
1983.10.7 発行

7月の例会の報告(1983.7.16 郡立大に2)

(発表者)

①長岡 信治(郡立大・院): 宍崎平野の地形発達と気候変化
について

②伊藤 真人(筑波大): サマースクールについて

(報告)

①氷河期海面変化と宍崎平野中南部・北部の段丘形成との関係、
および、海面変化とその影響を受けた山間部での堆積との関
係についての考察がなされた。

宍崎平野の段丘面は、P・B・C、AT、Aso4・5、KuP、NTなど多
くの鍵手つうにおよび、10数段に分けられる。平野の中南部と北部とは
段丘の縦断勾配が異なり、前者が谷底平野タイプ、後者が扇状地タ
イプの特徴を有している。また、海面変化の影響を受けた山間部
の河川として、平野北端の耳川・坪谷川流域を対象として調査をお
こなした。耳川・坪谷川流域の段丘面は坪谷I~IV面と沖積段丘
に区別されるが、このうちI面はAso4をのせるP-7T4P.Pに相当した面
でIII・IV面がATをのせる面である。この調査から、①気候変化と堆
積物の生産量との対応がみられず、②関東にみられるPm-Iを
基準とするf川が九州・宍崎平野ではみられず、ことがわかっ
た。また、I・II面のf川は、河川上部の谷頭部の崩壊によっ
てもたらされたものであると、いう推定がなされた。

② サマー・スクールの案内として、北アルプス・橋・越高連峰周辺の氷河地形の簡単な紹介がなされた。

サマー・スクールの報告

去る8月28日より31日まで、小恒例のサマー・スクールが開かれ
 ました。今年度は「北アルプス・橋・越高連峰の氷河地形」と題し、
 伊藤真人氏(筑波大)、藤岡毅氏(千葉大・院)、田村文雄氏(学芸大・院)
 が案内者となりました。日程は以下の通りでした。

8/28 新越高温泉バスターミナル集合、橋平までの間に、段上峠等の観察

8/29 橋平から飛騨沢までの梯の登り、飛騨沢の氷河地形、特にエレシ観察

8/30 橋平温泉後、快晴の中、南岳への縦登りを通り、カール地形、岩氷河を観察

南岳から天狗原(氷河公園)を経て橋平へ

8/31 ババ平から上高地へ、一俣、三俣のエレシ等の観察、上高地解散
 (参加者)

案内: 伊藤真人(筑波大)

神田健三(名古屋大・局高)

朝市編: 渡辺悌二(筑波大・M2)

吉田正隆(信大・院)

案内: 藤岡毅(千葉大・M1)

田中其一(一宮西高)

〃: 田村文雄(学芸大・M2)

清水長正(学芸大・D)

小林 詢(信州大)

梅津 讓(東北大・M1)

鈴木 由告(上野高)

平井昌行(法政大・M1)・隆行

岩田 修二(都立大)

堅山森人(大泉)

松本 淳(東京大)

計18名(恒不同)

山本元・桂英之・水野(筑波大・院) 参加者のほかにがテントでの参加でした

1983年度 サマースクールについて

今年度のサマースクールは、北アルプス南部、穂ヶ岳周辺で
下記の通り行うことになりました。宿の予約等のため、

7月20日(※着)までに 参加希望者は事務局までお知らせ下さい。

なお、7月の例会に出席される方は、会場でも申し込みを受けつけます。
部分参加も可能です。

[日程] 8月28日(日) ~ 31日(水)

8/28、新穂高温泉バスターミナル^{AM} 9:00 集合

新穂高温泉 (5:00) → 穂平 (穂平小屋) 泊

8/29、穂平 (4:00) → 南岳 (2:30) → 穂ヶ岳 (穂ヶ岳山荘) 泊

8/30、穂ヶ岳 (1:30) → 天狗原 往復 (1:30) → ババ平 (樺沢ロッジ) 泊

8/31、ババ平 (2:00) → 横尾 (3:00) → 上高地

上記、3泊ともテント宿泊可能です。ただしババ平(テント指定地)

にはトイレはありません。ババ平と樺沢ロッジは約30分がかりです。

[新穂高温泉への足]

① 上野発 20:53 急行 能登 4:50 富山 4:52 高山→神岡線直通 6:14 神岡 6:20 バス 7:20
8/27 F3

② 大阪発 22:10 急行 能登 4:08 富山
8/27 F3

③ 名古屋発 23:50 急行 能登 2:56 高山 3:15 バス 4:47 新穂高温泉バスターミナル
8/27 F3

このバスは不定期なので利用される方は
運行状況をご確認ください。

* 新穂高温泉には駐車場、テント場、無料公衆浴場(温泉)、レストラン、食通(朝から夜まで)
等の設備があります。

